



チャイルド・スポンサーから私、私から次世代へ「優しい愛」のバトン

「私のチャイルド・スポンサー、ロバートさんへ。私はあなたに会ったことはないけれど、あなたが人生の中にもともにいてくれたことを本当に感謝しています」

フィリピンのミンダナオ島。1日3回の食事を取ることが難しい家庭に生まれたメリーさんは、貧困に掛けそうになりながらも、チャイルド・スポンサーシップの支援を受け、なんとか勉強を続けていました。
「幼い頃は学校に必要なものを用意するのも大変だった。ワールド・ビジョンのスタッフと一緒に制服や靴をそろえたわ」

そんなメリーさんが見つけた夢は学校の先生になること。ワールド・ビジョンのワークショップでグループのまとめ役を務めたとき、誰かに教えることがしたい、そう気づいたそうです。
「チャイルド・スポンサーのロバートさんが私に手紙を書き続けてくれたの。誰かが私を思ってくれていることがどんなに温かくて優しいことなのか、ロバートさんが私に教えてくれたの」



学校の先生になったメリーさん

受け取った希望を次の世代へ

メリーさんは夢を叶え、高校の先生として働き始めました。「先生になった今、生徒が必要としているとき、いつもそばにしているわ。だって、自分を応援してくれる誰かがいる、その大切さを私は知っているから」
優しい愛を受け取り、素敵な先生へと成長したメリーさん。今度は彼女が子どもたちへ希望をバトンタッチ。

あなたも、子どもたちに喜びを届けませんか？

チャイルド・スポンサーシップのお申し込み、また、チャイルドをもう一人ご支援いただける方は、お電話または WEB からご連絡ください。

📞 電話でのお申し込み ☎️ 03-5334-5351
(平日10:00-17:00)

🌐 WEB からの申し込み 📄
ワールド・ビジョン 🔍



公式 SNS でもチャイルドのストーリーや支援地域の様子を発信中！ぜひフォローしてください。

FACEBOOK @worldvisionjapan

Twitter @WorldVisionJPN

Instagram @worldvisionjapan

LINE LINE



故郷を追われた子どもたちや人々

— 希望の種をまく難民・国内避難民支援 —

故郷を追われた 子どもたちや人々

— 希望の種をまく難民・国内避難民支援 —

紛争や迫害、暴力、人権侵害等により難民・国内避難民となって故郷を追われた子どもたちや人々は、史上初めて1億人を越えました（UNHCR2022）。国境を越えずに避難生活を送っている国内避難民数は年々増加傾向にあり、故郷を追われた子どもたちや人々の半数以上を占めます。難民と同様に、故郷での深刻な危険と先の見えない厳しい避難生活を強いられています。また、子どもたちは学びや遊びの機会を奪われ、恐怖と隣り合わせの日々を過ごしており、虐待や搾取、児童婚のリスクにもさらされています。ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は、命を守り、回復を支え、未来を築く支援を子どもたちや人々に届けています。この特集では、長期化する紛争の影響や新たな暴力の高まり等に向き合う支援事業担当スタッフの想いとWVが実施する希望の種をまく難民・国内避難民支援を紹介します。

12年にわたる紛争により弱い立場にあったシリアの子どもたちや人々は、2023年2月に発生した壊滅的な地震によりさらに過酷な状況に追い込まれています。

ウクライナ 紛争の激化から1年、高まる精神的ケアの必要性



WVが実施する心理社会的支援プログラムに参加するマリアちゃんと児童心理学者のユリアさん

WVは、ウクライナ危機発生直後から隣国ルーマニアを拠点に緊急人道支援を開始し、モルドバ、ジョージア、ウクライナ国内で国際的人道支援パートナーと連携し、支援活動を実施しています。教育支援をはじめ、子どもの保護プログラム、食料・救援物資の提供、水衛生改善のための支援、現金またはバウチャー支援を通じて、2023年2月末までにウクライナ国内で412,418人、そしてルーマニア、モルドバ、ジョージアで243,902人に支援を届けました。精神的ケアを必要としている子どもたちのためには、子どもたちが安心して過ごすことができる「チャイルド・フレンドリー・スペース（CFS）」を設置し、ケースワーカーが心理社会的サポートを実施しています。



支援事業部
緊急人道支援課 課長
伊藤 真理

イラク駐在
プログラム・
コーディネーター
古田 ちあき

NGO職員として、また個人としても、ウクライナに関する情報に触れるたびに辛い気持ちと戦う毎日です。

WVは2023年2月末までに、65万人の人々、特に女性や子どもたちに命を守る支援を届けてきました。

しかしながら、長引く戦況やこれほどの規模の危機にあって、必要な支援をすべての人々に届けることができない困難さ、そして、「平和」と「復興」がまだ見えない状況に私たちも心が折れそうになります。

それでも、多くのウクライナの人々が希望を捨てずにいる事実や、国内外で厳しい環境に適応しようと懸命に生きている子どもたちの話を聞くと、ウクライナの人々だけではなく、我々の未来のために、ともに頑張らなくてはならないという思いを新たにします。

シリア 平和な国を知らない子どもたち。避難生活に追い打ちをかける大地震



事業地の避難民キャンプ

シリア北西部の国内避難民や受け入れコミュニティに対し、水衛生、教育、栄養等の分野の事業を行っています。越冬支援と呼ばれる、防寒着や暖房用燃料の配布等も行います。水衛生は生きていく上で不可欠な安全な水やせっけん等の配布やゴミ収集、トイレの汲み取り等の活動を、教育は主に紛争で損傷した公立学校の修復、栄養は貧困により栄養不良に陥った5歳未満の子どもや妊産婦の回復を支える支援を行っています。現在はこれら事業に加え、2月に発生した大地震を受けて、緊急・復興支援として食料、生活必需品や暖房・調理用の燃料配布等を行っています。



支援事業部 緊急人道支援課
ヨルダン駐在
プログラム・コーディネーター
渡邊 裕子

私は現在シリア国内の事業を担当していますが、治安の関係上、渡航制限があり、シリア国内に入ることができません。そしてシリア国内にいるシリア人の同僚は、国外に出ることが難しいため、実は一度も会ったことがありません。日々の業務はメールやオンラインでのチャット等で行っています。働き者の同僚たちを見ていると、彼ら自身が避難民であり、紛争の影響を受けながら暮らしているということ忘れてしまいそうになります。紛争地で暮らし、自分や家族を守ることで大変なストレスを受けているはずの彼らがせめて事業のことでストレスを抱えないよう、事業に関する質問が来たら遅い時間であってもなるべくその日のうちに回答したいと心がけています。

バングラデシュ 激しい武力弾圧から逃れてきた人々の半数以上は女性や 18 歳未満の子どもたち (UNHCR2023)



「女性と女子のためのセンター」で実施している裁縫教室



支援事業部
開発事業第2課
シニアプログラム・コーディネーター
西島 恵

避難民キャンプのある家庭を訪問した際、青年女子がいましたが、何の活動にも参加しておらず、危険であるため外出はほとんどしていないとのことでした。男性が家の外を通ると、彼女は奥に引き込んでしまいました。また、食料や物資の受け取りは夫のみの役割であるため、次の食料配布の予定さえ知らない女性もいました。そのような中、本事業の取り組みにより、少しずつ変化が見られます。妻や娘の外出を許すようになった男性や、娘の児童婚をやめた宗教リーダーも出てきました。女性たちは悩み事があると「女性と女子のためのセンター」を自ら訪れ、悩みを相談するようになりました。夫婦仲が良かったという声もあがっています。将来の希望を見出せない避難民キャンプにいても変化しているということは希望の現れであり、彼らの生きようとする力に心を揺さぶられます。

イスラム教を信仰する少数民族ロヒンギヤの人々は、2017 年以降、激しい武力弾圧を受け、95 万人以上がバングラデシュで避難生活を余儀なくされています (UNHCR2023)。長期化する避難民キャンプでの生活による不安や苛立ちは時に暴力として女性や子どもに向けられ、家庭内暴力は増加傾向にあります。文化的に女性は外出に制限があり、問題を他者と共有し、支援サービスを受けることが困難です。児童婚や人身取引などの犯罪も増加しています。

本事業では、避難民キャンプとバングラデシュのコミュニティにおいて、女性や女子が尊厳や健康を回復し、安全な生活環境を築くため、啓発や生活必需品 (生理用品、懐中電灯等) の配布、ケースワーカーによる日々の相談対応等を実施しています。「女性と女子のためのセンター」では裁縫教室等が開催され、女性と女子たちの憩いの場となっています。加えて、男性や宗教リーダー、政府関係者や警察も対象に啓発や研修を実施し、地域全体で女性、女子、男子の保護環境の整備に取り組んでいます。

エチオピア 知られざる人道危機。国内避難民居住地からの帰還民への支援



安全な水を汲む帰還民



支援事業部 開発事業第3課
プログラム・コーディネーター
池之谷 理恵

アフール州の帰還民は戦闘によって破壊された故郷を目の当たりにし、帰還後も紛争の影響下での生活が続いています。エチオピアと聞くと標高が高いイメージがあるかもしれませんが、アフール州は標高が低く、1 年の約半分は 40℃を超える日が続きます。水道やトイレ等、生活に必須なインフラ設備がない環境に置かれている帰還民の生活が、とくに幼い子どもたちやお年寄りにとっては、どれほど過酷なのか想像に難くありません。そのような状況でも、安全な水が飲めるようになり喜ぶ人々や、お年寄りに手を添えてサポートする現地スタッフの姿を見て、困難な中においても少しでも希望を見出せるような、そんな支援をこれからも届けられたらと思います。

2020 年 11 月にエチオピア北部のティグライ州で発生した紛争は、隣接するアフール州にも広がり、多くの人々が安全を求めて国内避難民として故郷を離れざるを得ない状況となりました。治安の回復後、国内避難民だった人々は故郷に帰ることができましたが (帰還した人を「帰還民」と呼びます)、紛争の影響で故郷の水衛生施設は破壊されており、帰還民は安全な水を飲むことやトイレに行くことができなくなってしまったため、濁った川や池の水を飲み、屋外排泄をしていました。このような状況を受けて、WVJ では、アフール州において、帰還民に対する水衛生支援事業を実施し、水道施設の修繕、トイレや手洗い場の設置等を行っています。

南スーダン アフリカ最大の難民危機。国内外へ避難を強いられる子どもたちや人々



避難民キャンプの子どもたちが多く通うコミュニティの小学校で実施した手洗いのデモンストレーション



支援事業部 緊急人道支援課
プログラム・コーディネーター
内藤 優和

南スーダンでは 2013 年以降、232 万人の難民、223 万人の国内避難民が発生し、「アフリカ最大の難民危機」は今も続いています (UNHCR2023)。南スーダン西部のタンブラ郡では 2021 年 6~10 月に勃発した地域紛争により約 8 万人規模の避難民が発生しました (2022 年 9 月時点)。紛争の影響により水衛生施設や保健施設が破壊され、人口が急増し過密状態となった避難民キャンプでは、新型コロナウイルスの感染リスクの拡大が深刻な課題となりました。WVJ では、避難民キャンプの井戸、仮設トイレ、手洗い場等の水衛生施設を修繕・設置し、避難民キャンプや周辺コミュニティの子どもやおとなたちに対して手洗い等の正しい衛生習慣の啓発を行いました。保健施設に対しても破壊された建物や給水システムの修繕に加え、保健スタッフ向けに感染症対策に関する研修を実施しました。

人々が密集して暮らし流入が多い避難民キャンプは新型コロナウイルスに限らずほかの感染症の蔓延リスクに常にさらされています。子どもたちを含む人々の命を守るために、感染症や衛生習慣に関する正しい知識を繰り返し根気よく伝え続けていく中で、自ら簡易手洗い場を設置し感染症対策を行うコミュニティ内の飲食店が増える等、事業開始前には見られなかった変化も生まれています。治安の関係上、日本人スタッフが事業地に入ることができない制限がある中でも、故郷を追われ厳しい環境の中で避難生活を送る人々が自分や周りの人々のために自分にできることをしようと起こした小さな行動の変化に、想いをせながら事業を実施しています。

緊急支援から復興への取り組みまで“今最も必要な支援”を子どもたちに届けます



WV は、これまで 70 年以上、世界各地で発生する危機において、避難場所を整備し、心の傷を癒し、教育の機会を提供し、子どもたちを守ってきました。昨年は、政府、国連機関、現地パートナー団体とともに、59 件の緊急課題において、2,800 万人以上に支援を届けました。今も、シリア、ウクライナ、南スーダン等、長引く紛争の影響下にある国で、刻々と変わる状況に応じながら、“命を守り、回復を支え、未来を築く支援”を子どもたちに届けています。

シリアに住むノアちゃん (10 歳) と妹のサマルちゃん (1 歳) (※いずれも仮名)。暮らしていた村への爆撃で、お母さんが亡くなりました。親戚と一緒にシリア北西部の避難民キャンプに逃れ、今は姉とともに、小さい弟や妹たちを守っています

難民支援募金のお願い — 難民・避難民の子どもたちの支援 —

シリアのノアちゃんやサマルちゃんのように、厳しい環境下の避難生活を強いられる子どもたちを守り、回復を支え、未来を築くために、難民支援募金にご協力ください。



ワールド・ビジョン・ジャパンの 国内子ども支援事業

今、日本では7人に1人の子どもが、「相対的貧困」に陥っています
ワールド・ビジョン・ジャパン(WVJ)が取り組んでいる国内子ども支援事業をご紹介します

「子どもの権利」があたりまえに守られる社会へ

WVJは子どもを支援する国際NGOとして、「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」が保障する「生きる」「育つ」「守られる」「参加する」権利が守られる世界の実現を目指しています。条約の批准国である日本においても、これまでのアドボカシー(政府への働きかけ)等が実を結び、2022年6月に「子ども基本法」「子ども家庭庁設置法」が成立し、2023年4月には「子ども家庭庁」が発足する等、子どもの権利を実現する社会づくりが進みつつあります。子どもたちは、学校内外での学び、遊び、多くの人との交流等、様々な体験を通じて、心身ともに成長していきますが、日本社会では、残念ながらこれらがすべての子どもにとってあたりまえとは言えない状況です。

見えづらい日本の子どもの貧困

「相対的貧困」は、その国や地域の水準の中で比較して、大多数よりも貧しい状態のことを指します。日本の相対的貧困率(2018年)は、全体で15.4%、子どもで13.5%と、先進国と呼ばれる国の中でも高い水準となっています(国民生活基礎調査2019)。保護者の収入減等、様々な事情を抱えた家庭では、教育費や食費を切り詰めざるを得ず、子どもたちは友達との交流や学びの場、様々な体験の機会等が失われてしまうこともあります。子どもたちの教育・生活・健康面に影響を及ぼす貧困の問題は、家庭の外からは見えづらくもありませんが、確かに存在しています。私たちはこれを社会全体の課題ととらえ、解決に向けて取り組まなければなりません。



日本の子どもの未来を築くために

広める



WVJの事務所が立地している中野区では、2022年3月に「中野区子どもの権利に関する条例」が制定されました。WVJは地域の市民団体の一員として、子どもの権利の啓発に取り組んでいます。その一環として、中野区立中野東図書館との共催により、中野区と中野区教育委員会の後援を得て、2022年10月から約1カ月間にわたり「子どもの権利写真展」を開催しました。準備にあたり中野区立中野東中学校にもご協力いただきました。

写真展の準備に 参加した中学生の声

「世界には色々な子どもがいるということが写真を見るだけでも少しわかった。見るだけではわからないこともあるけど、見るだけでも気づくことはあるので大切だと思う」

また、日本社会全体の子どもの権利の実現に向け、他団体とともに「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」を2019年に立ち上げました。WVJは実行委員団体として、ネットワーク構築、政策提言、啓発等の活動に取り組んでいます。

支える

WVJでは、2020年から、主に中野区・豊島区・北区の学習支援団体や子ども食堂等へ助成金を提供しています。2022年からは、虐待等の避難者のための首都圏の民間シェルター等にも対象を拡大しました。また、特定非営利活動法人ここからプロジェクトと連携し、中野区で長期休み中の子どもたちの居場所「なかのマイスペース」を運営しました。

加えて、2023年からは、高校に進学する生活困窮家庭の子どもを対象とした「入学祝い金」の支給を開始しました。



「なかのマイスペース」 に参加した子どもの声

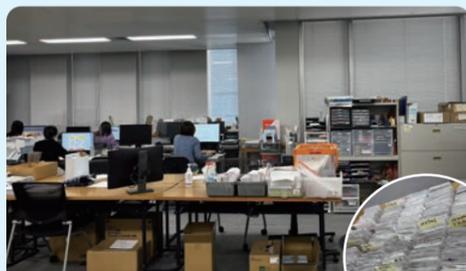
「楽しく勉強ができ自由に過ごせた。家にいたら夏休みが充実しなかったの、ここに来て良かった」
「静かな環境と楽しい居場所があったのが良かった」

日本の子どもたちへの支援にご協力をお願いします

WVJは日本を含む世界の子どもたち、特に様々な権利が侵害され最も弱い立場にある子どもたちとともに、これからも歩みを進めていきます。今後の国内子ども支援事業では、現在実施中の活動を基盤として、規模や対象地域を広げることを検討中です。日本の子どもたちを、日本の皆さまとともに支援し、すべての子どもが豊かなのちを生きられることを願っています。皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



たくさんの想いをのせて ~チャイルド・スポンサーからの手紙がチャイルドに届くまで~



1 WVJ 事務所

チャイルド・スポンサーが投函した手紙は、東京にあるWVJ事務所に届きます※。到着の記録をとり、必要に応じて翻訳ボランティアスタッフによって1通ずつ英訳された後、支援国ごとに仕分けして発送します。

※2023年3月現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、チャイルドへの手紙はすべてWVJ事務所へお送りいただいています。

チャイルド・スポンサーシップの支援を通して、多くのチャイルド・スポンサーの皆さまが楽しみにして下さるのが、手紙を通じたチャイルドとの交流です。メールやスマートフォンアプリなどを使って遠く離れた人とも簡単にやり取りができる今だからこそ、チャイルドの顔を思い浮かべながら手紙を書いたり、届いた返事をドキドキしながら開封したりするひと時を、たくさんの方が特別に感じてくださるのかもしれない。

日本のチャイルド・スポンサーからの手紙は、ワールド・ビジョン・ジャパン (WVJ) と支援国のワールド・ビジョン (WV) スタッフ、ボランティアの皆さま等、多くの人から手へと渡りながら、1通ずつ大切にチャイルドに届けられます。チャイルド・スポンサーと世界中のチャイルドをつなぐ手紙が子どもたちのもとへと届くまでの過程を、手紙に携わるスタッフの想いとともにご紹介いたします。



6 支援地域のWV事務所から日本へ

チャイルドが書いた手紙は、支援地域のWV事務所を経由して、その国の活動を統括するWV事務所に集められます。そこで情報管理システムへの登録、現地語から英語への翻訳などのプロセスを経て日本へ発送されます。WVJ事務所が必要に応じて和訳した後に、チャイルド・スポンサーへ届けられます。



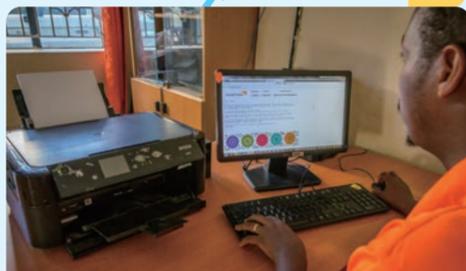
3 支援地域のWV事務所

事務所からは地域のスタッフが手紙を運び、チャイルドに直接手渡します。チャイルドが住む地域は、WVの事務所から数十キロ以上離れていることも珍しくない上に、舗装されていない悪路や、悪天候で水没した道を何時間もかけて移動しなければならないこともあります。また、チャイルドが不在だった場合には、会えるまで何度も訪問しなければなりません。



4 チャイルドへ

手紙を渡すスタッフはこう話します。「チャイルドの家を1軒ずつ回るのは大変です。でも、チャイルドと交わす何気ない会話から、その子の健康状態や近況を知ることができますし、何より、手紙を受け取ったときの子どもたちの嬉しそうな笑顔が、それまでの苦勞を忘れさせてくれるのです」



2 支援国のWV事務所

支援国の活動を統括するWV事務所に着いた手紙は、英語から現地語への翻訳後、情報管理システムに登録されます。その後チャイルドが住む支援地域のWV事務所へ送られます。

WVJでは、アルバイトスタッフやボランティアの皆さまが、手紙の仕分け、翻訳、発送等、ご自身のスキルを活かしながら様々な業務で活躍しています。手紙の業務に携わる2人に、担当している仕事や、手紙に対する思いなどを語っていただきました。



浦尾 千佳さん
在宅翻訳ボランティア

2005年から、20年近くチャイルドからの手紙を和訳する在宅ボランティアをしています。手紙を翻訳する際は、チャイルドの年齢や性別などを考えながら、子どもらしい自然な文章になるように気を付けています。また、現地の単語など、辞書には載っていない言葉を調べるのも楽しい作業です。手紙に書かれた現地語の文章やかわいらしい絵などを見ると、一生懸命書いているチャイルドの姿を想像して、思わず笑顔になってしまいます。



吉原 朋子
アルバイトスタッフ

チャイルドからのお手紙の到着確認や記録、在宅ボランティアの皆さまへの翻訳依頼等のほか、各種サポート業務を担当しています。学生時代、途上国支援の仕事に就きたいという希望を持っていたので、WVJでの仕事を通じてチャイルド・スポンサーの皆さまとチャイルドの架け橋になれることがうれしく、また、やりがいを感じています。手紙には、多くのチャイルドが「スポンサーさまの健康と幸せをお祈りしています」と書いていて、それを見るたびに温かい気持ちになります。

手紙に関するよくあるご質問

- Q チャイルドへの手紙は何を書いたらよいですか？
- A 趣味や好きなスポーツといったご自身のこと、ご家族のこと、日本の天気や季節のこと、チャイルドに聞きたいこと（将来の夢、学校で学んでいること）等、ご自由にお書きください。
- Q 手紙は書かなければいけませんか？
- A 手紙は任意です。チャイルドにとって、チャイルド・スポンサーからご支援いただいていること自体が大きな励みです。
- Q Eメールで手紙を送ることはできますか？
- A WVJのホームページから、Eレターの送付が可能です。テンプレートからお好きなデザインを選び、写真を添付して送ることができますので、ぜひご利用ください。



Eレターのイメージ

お知らせ

現在、チャイルドからの手紙をデータ化し、チャイルド・スポンサーの皆さまにオンラインで見ただけのような取り組みを行っています。環境負荷に配慮するとともに、現地スタッフがより多くの時間を地域での支援活動にあてられるよう、進めてまいります。



東京マラソン 2023に WVJ チャリティランナー 114名が参加

「子どもたちにきれいな水を届けたい」という想いを胸に 114 名の WVJ チャリティランナーが、3 月 5 日に開催された東京マラソン 2023 に参加しました。

WVJ は、東京マラソン 2020 チャリティを通じた支援によって、コンゴ民主共和国での水衛生改善プロジェクトとエチオピアでのフッ素除去装置の建設プロジェクトを実施することができました。

また、この大会には、厳しい環境に置かれた子どもたちのために寄付を募りながら走るランニングチーム、TEAM WORLD VISION（チームワールド・ビジョン、TWV）の 14 名も参加しました。TWV は主にワールド・ビジョン米国のチャイルド・スポンサーで構成されており、毎年約

2000 人、これまでに延べ 10 万人が世界中で走ることを通じて貢献しています。WVJ チャリティランナーの一人、福井智也さんは「沿道からの応援がとても力になりました。また、WV のシャツを着ていたことが、TWV のランナーともコミュニケーションをとるきっかけとなり、素晴らしい体験となりました」と感想をお寄せくださいました。福井さんはご勤務先の塩野義製薬株式会社が WVJ と連携して支援事業を実施していることをきっかけに、WVJ を寄付先にご選択くださいました。身体の限界と戦いながらゴールを目指す勇姿は、沿道で応援していたスタッフ一同に感動と勇気を与えてくれました。チャリティランナー、TWV メンバー、そして応援して下さった皆さま、ありがとうございました。



マラソン当日、円陣を組み励まし合う TWV のメンバー



初のフルマラソンを完了した元スタッフの堂道さん（左）と支援事業部の李スタッフ（右）。TWV 責任者のユアンバさん（中央）とともに



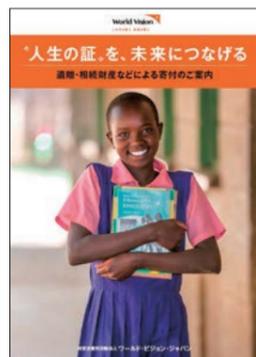
マラソン当日の様子 © 東京マラソン財団

東京マラソン 2023 の報告ページはこちら



WVJ は、東京マラソン財団チャリティ「RUN with HEART」の寄付先団体です。
東京マラソン財団チャリティ「RUN with HEART」公式サイト <https://www.runwithheart.jp/>

“人生の証”を、未来につなげる 遺産や相続財産を寄付する方法があるのをご存じですか？



詳しいパンフレット（無料）もご用意しています

「遺贈」は、遺言によって財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に無償で譲与することです。また、故人のご遺志を受け継いだ相続人が相続財産から寄付することもできます。WVJ は十数年にわたり、これらのご寄付をお受けしています。

- ご寄付の金額は自由です。
- 一定条件のもと、現金以外のご寄付・包括遺贈もお受けしています。お子さんのいないご夫婦の、予備的包括遺贈も検討可能です。
- 相続税の申告期限内に WVJ へご寄付をくださった場合、一部の例外を除き、その寄付額には相続税が課税されません。

「専門家を紹介してほしい」「寄付について相談したい」等、ささいなことでも構いません。どうぞお気軽にお問い合わせください。
秘密厳守、無料でご相談をお受けしています。

パンフレットのご請求・お問い合わせは「遺贈・相続財産による寄付担当」まで
TEL : 03-5334-5355 (平日 10:00-17:00)
Eメール : donation@worldvision.or.jp

小学生向けオンラインイベント「WVサマースクール2023」参加者募集中

今年のサマースクールはバーチャルツアーでケニアの子どもたちに会いに行きます。まるで現地に行っているかのような楽しい演出を交えながら、水衛生や保健の問題に理解を深める参加型オンラインイベントです。さらに塩野義製薬株式会社の協力により、感染症を取り巻く社会課題に対し

て私たちに何が出来るか、一緒に考えます。ご参加くださった方には、「夏休みの自由研究キット」をお送りします。皆さまのご参加をお待ちしています。



塩野義製薬の研究所

お申込みはこちら



WVJ のスタッフが教会を訪問しお話しします

WVJ のスタッフが教会を訪問し、教会学校、中高生会、青年会、婦人会、壮年会等の各種集会で世界の子どもたちの現状や支援活動の仕組み・成果等をお話します。まずはお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせはこちら
fd@worldvision.or.jp

住所変更

お引越しされた方、ご予約がある方は
ご連絡ください！

チャイルドからの手紙や成長報告、領収証等、大切な郵送物を確実にお手元にお届けできるよう、登録情報の変更がある方は事務局にご連絡ください。

お問い合わせフォームはこちら
「登録情報の変更について」をお選びください



マイワールド・ビジョンはこちら
「登録情報の確認、変更」をお選びください



世界に思いをはせて

Vol.12. 事務局長 木内(きない) 真理子

前号の WV ニュースで、NGO/NPO が G7 に提言を行う「C7 (Civil7)」活動についてご紹介しました。なぜそんな活動をしているの、と思う方もいるかもしれません。実は、G7 諸国の人口は世界の 10%に過ぎませんが、その経済力は世界の GDP の約 45%を占めています。つまり、数（人口）に比して大きな力と責任を担っているのです。他方、人道危機や気候変動などのグローバル問題で最も打撃を受けているのは G7 以外の、グローバルサウスと言われる数多くの途上国の、弱い立場に置かれた子どもたちや人々です。その声を G7 首脳に届け、よりの確で公正な決断をしてほしい。そんな思いで始まった活動です。4 月末現在、C7 の活動には世界 72 国から 700 名以上の NGO/NPO スタッフや市民が加わっています。



WVJ 木内事務局長（写真左から 5 人目）が、C7 代表の一人として、岸田総理大臣に C7 政策提言書を手渡ししました
Photo by ソーワルグッド/ 宿野部隆之